



熊本市立 大江小学校

ときめき

2024.5.22 (水)

No. 33

文責
松永

白川について
～防災と
流域治水～

「防災」についての出前授業がありました② 六年生

田尻さんの話が終わると、再び国土交通省の方からのお話です。これまでの統計から全国の至るところで水害をはじめとした自然災害が起きていることを話されました。また、熊本市のハザードマップが紹介され、大江小校区も浸水の危険がある地域があることを画面を見ながら確認しました。ここで、今回の出前授業のために、今回はじめてデジタル技術、ARを使って制作された映像が登場しました。大江小学校の辺りはハザードマップを見ても浸水の可能性は低い土地の高さになっていますが、子どもたちがよく遊んでいる堂免公園や大江小卒業後に通う子どもが多い白川中学校、小学校裏の交差点辺りは浸水危険の色がついています。実際にその場所の写真が提示され、実際にそこに立ったとイメージします。すると雨が降り出す想定になり、画面にも雨粒が見えて雨音がしてきます。その雨がどんどん強くなり、実際に白川大水害と同じレベルの雨が降ったら…と映像が変化していきます。今まで見えていた場所が水没していきます。たたきつけるような雨の音、流れてくる水の速さや色なども再現されています。交差点の映像では、雨が降る前に歩いていた子どもや自転車に乗った人の姿がありましたが、そこに大雨が降ったらどうなるか…と考えました。さらに水害がみんなに与える影響ということも、考えていきました。学校は？店は？交通機関は？家は？、他人ごとではないと思いました。ここで、「流域治水」という言葉を示されました。これは、流域に関わるみんなで行う水災害対策のことです。つまり、河川の流域に住む一人一人ができることから対策をしていこうと呼びかけられました。身の回りの水害の危険性を確認して、自分や家族の命を守るためにできることを各自が各家庭が考えて準備することが大事ということですね。自分のための行動でも、視点を変えれば人のため、地域のためになるというわけです。また、水害から自分を守るために、・大雨の時は川に近づかない ・他人事だと思わずにすぐに避難！ ・日頃からどこに逃げるか何を準備するかを決めておく といった点の話がありました。最後に出されたクイズもなるほどでした。避難所に向かう時はスニーカー？ 長靴？の問いの答えは、スニーカーです。長靴だと中に水が入って歩けなくなるそうです。浸水が始まり水の流れが速くなると浅くても歩けなくなるので、やはり早めの避難が大事というわけです。最後に「水害の自分事化」という言葉を言われました。田尻さんも話されましたが、自分で考えて動く考動力の大切さも忘れてはいけません。大事なことは、今回の出前授業をどう活かしていくかですね。

